

あなたの家庭教育支援事業に人権学習を

幼稚園・保育所・小学校・中学校で家庭教育の充実をねらいとして行われている、家庭教育学級の計画例です。

- 1 こま全体が人権学習
3回目「女性・子どもの人権」
(P18～22)
- 1 こまの一部が人権学習
2回目「相手を思いやる心」(P24,25)
4回目「障害者・高齢者の人権」
(P26,27)
5回目「互いを尊重する心」(P23)
6回目「子どもの人権」(P28～30)

回数	内 容	会 場
1	開講式 親同士のコミュニケーション力を高める (親学習プログラム)	学 校
2	我が家のお弁当を紹介し合おう (家庭における食育)	公民館 調理室
3	家族の人権について考えよう 家庭での役割分担について	学 校
4	美術鑑賞 「そうだ。美術館へ行こう！」	美術館
5	親子レクリエーション 心と体の親子のふれあい	体育館
6	講話と閉講式 子どものほめ方・しかり方	学 校

1 こま全体が人権学習

家族の人権について考えよう (3回目)

ねらい 女性・子どもの人権 (95分)

話合いや疑似体験をとおして、家族一人一人の役割について考えるとともに、互いの立場や気持ちについての理解を深め、よりよい親子関係をつくる。



アイスブレーキング
20分

アクティビティ① 私も同じ (Same to you)

中心となる活動
65分

アクティビティ② ちがいのちがい

アクティビティ③ どっちがお得でショー

ふりかえり
10分

アクティビティ④ ふりかえり

アクティビティ① 私も同じ(Same to you) (20分)

◦ < 展開の仕方 > ◦

ねらい

緊張感を解きほぐし、場の雰囲気や和らげるとともに、家族の中にある固定観念からくる差別についての問題意識を高めます。

アドバイス

- 1 グループで順番を決め、出されたテーマ「今したいこと」、「食べたいもの」などを、下記の写真のように一人ずつ短い文章で記入します。
- 2 グループの人が記入した内容で、「自分も同じ」と思ったら、下の写真のようにイニシャルや名前の頭文字などで、その文章の周りにサインをします。
- 3 順に文章を記入し、サインをしていきます。
- 4 2番目のテーマとして、「家庭で女性だから損をしたこと」を短い文章で記入します。
- 5 1番目のテーマと同じように、「自分も同じ」と思ったらサインをします。
- 6 2番目のテーマについて、感じたことなどを発表し合います。

準備物：A3用紙またはポスターの裏など、付箋紙

このグループは自分を受け入れてくれる安心できる場であることを意識させましょう。

サインされることが、受け入れられている安心感を与えます。少しでも同じと感じたらサインをするように伝えましょう。

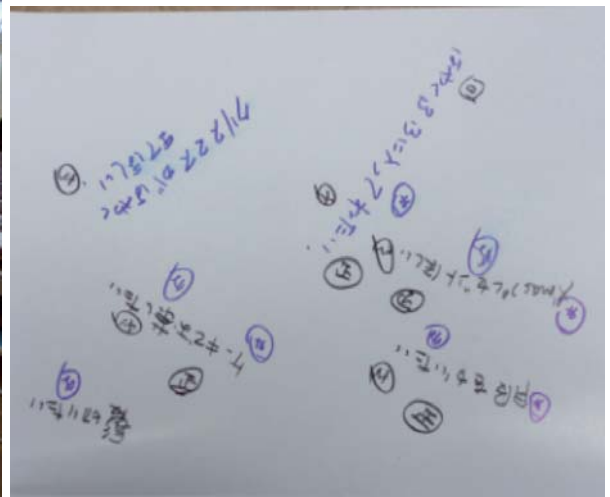
子どもや女性の人権に焦点をあてたテーマで実施しましょう。

だれもがテーマに対して同じような悩みや不安をもっていることを確認しましょう。

◦ < 気づいてほしい人権のポイント > ◦

- ほかの人が記入したことに同調し、サインをすることで、互いの考えを認め合うことの心地よさを感じることができます。

互いの意見に同調する → 自他ともに認め合う → 人権学習



アクティビティ② ちがいのちがい（30分）

＜展開の仕方＞

ねらい 固定観念や偏見による家庭の役割分担に気づき、個性や多様性を認めた家族の役割について考えます。

- 1 「ちがいのちがい」カードを、各自が「あってもよいちがい」「あってはならないちがい」「どちらともいえない」に理由を考えながら分けます。
- 2 グループで、シートを見せ合い、そのちがいは、なぜあってもよいのか、あってはならないのかについて話し合います。
- 3 グループのメンバーの意見を聞き、考えが変わったときはカードの場所を変えます。
- 4 活動をとおして、これからの生活で変えたいと思ったことをグループで話し合います。

アドバイス

分類する基準は一人一人違ってよいことを伝えましょう。

なぜあってもよいのか、あってはならないかを考えることが人権学習になります。十分時間をかけましょう。

個人の自由な発想を大切にしそれぞれの気づきにつなげましょう。

ちがいのちがい ワークシート（例）

【ちがいのちがい】ワークシート	
あってもよいちがい	その理由は？
あってはならない	その理由は？
どちらともいえない	その理由は？

ちがいのちがいカード（例）

お母さんは、庭の草取りをし、お父さんは庭木の手入れをする。	お母さんは仕事の後に買物をするが、お父さんはまっすぐ家に帰る。
孫の送迎は祖父が行い、留守番は祖母が行う。	お父さんは、祖父母の病院への送迎をするが、介護はお母さんがする。
家の手伝いをするとき、兄のAさんは玄関掃除で、妹のBさんは料理の手伝いをする。	一番初めにお風呂に入るのはお父さんで、その後が子ども、お母さんはほぼ毎日最後になる。
共働きのCさんの家では、お父さんは仕事から帰るとすぐにビールを飲むが、お母さんは夕食の準備をする。	夕食後、お母さんは後片付けをするが、高校生のDさんは、すぐに部屋へ行って勉強をする。

*ワークシートは上にカードを並べるので、A3の用紙で作成しましょう。

アクティビティ③ どっちがお得でショー（35分）

＜展開の仕方＞

わらい

母親、父親と子どもの役にわかれて、それぞれの立場に立った意見を主張し合うことにより、互いの役割を考えた、よりよい親子・家族関係を築こうとする意識を高めます。

アドバイス

- 1 「どっちがお得でショー」の説明を聞きます。
 - ①グループの中で、母親役、父親役、子ども役を決め、それぞれの立場の方が損と感じるところを順番に主張します。
 - ②役のない方は、観察者として様子を見守ります。
※3回程度(1回約3分間)グループ内で役割を変更して実施します。
 - 2 母親、父親、子どものそれぞれが損なところを互いの役になりきって主張し合います。

母親……子どもや夫のために生活の大部分を使っている。

父親……子どもと親しむ時間がとれない。

子ども…理由もなくしかれてしまう。
子どもだからといろいろな制約される。
 - 3 観察者は、それぞれが主張し合った様子を見て、自らの体験等を基に感想を述べます。
【2・3を役割を変更して3回程度繰り返します】
 - 4 それぞれの立場に立った感想、特に子どもの立場について気づいたことや感じたことを発表し合います。
 - 5 これまでの活動から、今後のよりよい親子関係づくりについて考えます。
- 【まとめの観点例】
- 母親 → 子どもはかけがえのない存在である。
子どもを一人の人間として尊重したい。
- 父親 → 母親ばかりに子育てを任せずに、子どもと積極的にかかわりたい。
- 子ども → 甘えの対象としての親も存在する。
親離れし、自立したいという心も芽生えてくる。

ふだんとは違ったコミュニケーションのとり方を体験させましょう。

男性も母親役になり、夫婦や家族の役割を考えるようにさせましょう。

討論の勝敗が学習の目的ではないことを確認しましょう。

根拠を明確にして主張するように助言しましょう。

家族一人一人の立場を理解し相互に尊重し合うことが、よりよい親子関係や家族内の人権尊重につながることを確認しましょう。

発表を基に、家族一人一人の役割や親子関係の解決すべき課題などについて話し合しましょう。

今回は「女性・子どもの人権」がテーマであるため、「母親」と「父親」の違いを強調するアクティビティとなっています。

準備物： A4用紙(メモ用)…参加人数分
「母親役」「父親役」「子ども役」の役割分担がわかる表示物

アクティビティ④ ふりかえり：感じたり、気づいたことは（10分）

＜展開の仕方＞

ねらい

家族の人権について感じたことや気づいたことをふりかえることにより、今後の実践への意欲を高めます。

- 1 ふりかえりシートに、今日の学習で感じたことや気づいたことなどを記入します。
- 2 グループで、ふりかえりシートを基に、本日の感想や今後の家族の役割、親子関係についてどうしていきたいかを発表し合います。

準備物： ふりかえりシート…参加人数分

アドバイス

話合いが深まるように、家族の役割について視点をあて話し合うように伝えましょう。

ワークシート

ふりかえりシート

氏名()

1. 今日の学習で感じたことや気づいたことは何ですか。

[]

[]

2. 家に帰って、子どもに接する時にどんなことを心がけたいと思いますか。

[]

[]

3. 家族の役割について、これから実行したいことは何ですか。

[]

[]

1こまの一部が人権学習のアクティビティ

親子レクリエーション（100分）プログラム5回目 アクティビティ⑤ 未来のカーペット（15分）

＜展開の仕方＞

ねらい

課題を解決するためには、他の意見を尊重したり、協力したりすることが大切なことに気づきます。

親子レクリエーションの一部

- 1 4人～5人のグループをつくります。
- 2 「この新聞紙は未来のカーペットで、世界中どこへでも行くことができます。」と声をかけます。
- 3 開いた新聞紙の上に、グループ全員が乗ります。
- 4 「あっ！カーペットが故障しました。さあ、皆さんの力を合わせるときです。実は、カーペットを動かす機械は、裏側にあります。だれ一人、カーペットから落ちないようにカーペットを裏返しにしてください。」と声をかけます。
- 5 グループで話し合い、カーペットを動かす方法を考えます

準備物：新聞紙（ビニールシートなどを使うこともできます）

アドバイス

話し合いを大切にしたいアクティビティです。全員で意見を出し合って方法を見つけ出すように助言しましょう。

話し合いのときは、新聞紙から降りてもよいことを伝えましょう。



＜気づいてほしい人権のポイント＞

- 他の意見を尊重し、課題を解決することが互いの人権を尊重することにつながります。
- 課題解決の過程で、グループ内のコミュニケーションやスキンシップにより、交流が深まるとともに、信頼関係や協調性が生まれるようになります。
- コミュニケーションの原点は相手の話を聞くことであり、話し合いの中で聞く姿勢や態度が大切であることに気づくことができます。

話し合い活動 → 傾聴・意見の譲り合い → 互いを尊重する心 → 人権学習

＜応用・発展＞

- 一枚のカーペットに乗る人数や時間により、難易度を変えることができます。

1こまの一部が人権学習のワークシート

我が家のお弁当を紹介し合おう（120分）プログラム2回目

アクティビティ⑥ お弁当から感じる思いやりの心（20分）

＜展開の仕方＞

ねらい

お弁当作りをとおり、相手を思いやる気持ちや、互いに認め合うことの大切さに気づきます。

アドバイス

作っている相手（お子さんや家族）を思い浮かべながら作るように助言しましょう。

小さなことでも「いいな」と感じたことをたくさん書いてもらいましょう。

見た目だけでなく、どんな思いでそれを作ったかなどに注目できるように助言しましょう。

- 1 食の大切さについての講話を聞きます。
- 2 用意された食材で、お弁当を作ります。
- 3 グループでお弁当の発表会をします。
 - ①ワークシート1にお弁当の名前と、どんな思いを込めて作ったかを書き、お弁当のそばに置きます。
 - ②ほかの人のお弁当とワークシートを見ながら、「いいな」と思ったことや感じたことなどを付箋紙に書き、そのお弁当のそばにはります。（エールの交換）
 - ③自分のお弁当にはられた付箋紙を見て、感じたことをワークシート2に記入し、発表し合います。
- 4 参加者全員で作ったお弁当で、楽しく会食をします。
- 5 全員で、協力しながら後片付けをします。

準備物：お弁当の食材、お弁当容器、付箋紙、ワークシート



＜気づいてほしい人権のポイント＞

- 同じ材料で作ったお弁当であっても、食べさせたい相手によってその飾り付けなどは違ってきます。その違いは、相手への深い愛情へつながるものです。さらには、違いを認めることにつながります。
- バランスのよい食生活は、心の安定を生み、自分自身を大切にしようとする意識につながります。このことは、他者を大切に作る心にも結びつきます。

相手を思いやる・相手を大切にする → 自他ともに認め合う → 人権学習

＜応用・発展＞

- 家族みんなで料理をすることが、よいコミュニケーションにつながります。
- 食育の視点からもプログラムを考えることができます。

食育の推進については、農林水産省/なぜ？なに？食育！！ **検索**

「そうだ。美術館へ行こう」(100分)プログラム4回目

アクティビティ⑦ バリアフリーについて考えよう(20分)

◦ < 展開の仕方 > ◦

ねらい

多くの人が、より使いやすい施設にするためにはどのような工夫をしたらよいかを考え、バリアフリーについて理解を深めます。

1 自分なりの目的をもって、作品の鑑賞を行います。

(鑑賞後に)

2 ワークシートの説明を聞き、バリアフリーの視点で施設を見学します。

①「だれでも使いやすい」という視点で、施設・設備を見学して、見つけたことや感じたことを記録しておきます。

②記録したことを基に意見交換をしながら、バリアフリーについて考えます。

3 今日の学習のふりかえりをします。

準備物：ワークシート

アドバイス

施設面での見学について、目的も含めて、美術館職員に伝えておきましょう。

ほかの鑑賞者の邪魔にならないように、施設設備を見学するように伝えましょう。

施設面の改修のほかに、自分自身がどのような介助ができるかという観点をもって話し合うように助言しましょう。

◦ < 気づいてほしい人権のポイント > ◦

- だれでも使いやすいものや設備をデザインすることによって、人に優しいまちづくりを推進することは、人権を尊重することそのものです。
- 大がかりな改修などができない場合でも、だれかが困っている人を少し介助することでだれもがいきいきと生活できるようになります。

だれでも使いやすい

→ バリアフリー・ユニバーサルデザイン

→ 人権学習

◦ < 応用・発展 > ◦

- バリアフリー（障害者や高齢者など特定の人々の障壁をなくすこと）から、ユニバーサルデザイン（はじめからすべての人が使いやすいようにデザインすること）へ発想を変えていくことが大切です。
- こんなものがあったら、どんな人でも使いやすいというものを考えアイデアスケッチをして、それを見せながら発表会を開くと、楽しくバリアフリーやユニバーサルデザインへの理解が深められます。



バリアフリーについて考えよう

ワークシート

1 施設内を見て、下の例を参考に「障害者にとって使いやすいように工夫されている」と感じるところを見つけてみましょう。

- (例1) トイレの水道が、自動で水が出て、止まる。
トイレの洗面台の高さがいくつもあり、背の高さで選べる。
- (例2) 自動販売機の取り出し口が上にある。
- (例3) 部屋の引き戸の取っ手が、握りやすい形になっている。
- (例4) 入口が自動ドアで、スロープと点字ブロックがある。



ここが	こうなっている (こうした方がもっとよい)

2 改修をしなくても、だれでも不便なく使えるようにするためには、どうしたらよいと思いますか。

(参考)

バリアフリーからユニバーサルデザイン (UD) へ
 ユニバーサルデザインとは、「すべての人のためのデザイン」を意味しています。年齢や障害の有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人で使用可能であるようにデザインすることをいいます。
 バリアフリー (障壁をなくすこと) よりも一歩進んだ考え方です。

子どものほめ方・しかり方（90分）プログラム6回目

アクティビティ⑧ 子どもの見方を考えよう（15分）

＜展開の仕方＞

ねらい

自分の子どもについて考えることをとおして、子どもを様々な角度から見ることの重要性に気づきます。

アドバイス

- サイコロトークの説明を聞き、実施します。
 - 各自、自分の子どものことをワークシートに記入します。
 - 4～6人グループをつくり、サイコロを振り、出た目のテーマについてメンバーに話します。
- ワークシートに記入した内容を、子どものよい点は青、悪い点は赤で色分けし、気づいたことを話し合います。
- これまでの子どもの見方を振り返るとともに、これからどのように見ていきたいかをワークシートに記入し、グループで発表します。
- 講話を聞きます。
- 閉講式で、全6回の講座のふりかえりをします。

（本書P30 別れの花束）

準備物：ワークシート、サイコロ、ラインマーカー（赤、青）人数分

時間がないときは、記入を省略して実施しましょう。

答えにくい内容のときもあります。パスやもう一度振るなどの特別ルールをつくっておきましょう。

どちらの色が多く、どうしてそうなのかという観点で話し合うように助言しましょう。

子どもを様々な角度から見ることの重要性に気づかせましょう。

＜気づいてほしい人権のポイント＞

- 子どもを多面的に見ることの大切さに気づくことが、「子どもの理解」について考えるきっかけになります。
- 見方を変えることで、否定的な言葉（マイナスイメージ）も肯定的な言葉（プラスイメージ）としてとらえられることに気づきます。

自分自身の子どもの見方を確認

→ 様々な角度から子どもを見る







→ 人権学習

＜応用・発展＞

- 色分けした後、マイナスイメージをプラスイメージに言い換える内容に、発展することもできます。
- 「自分の子どものこと」を「自分のこと」として実施することにより、自分に対する見方や思いをふりかえり、自尊感情（セルフエスティーム）を育てる内容とすることもできます。

子どもの見方を考えよう

- 1 あなたのお子さんのことを記入しましょう。
*お二人以上のお子様をおもちの方は、お一人を想定して記入してください。

 性格	行動 
勉強 	言葉遣い 
<p>私の子どもは 年 組 番 氏名：</p>	
友人関係 	夢中になっていること 

- 2 色分けして感じたこと、思ったことを記入しましょう。

- 3 これからどのようにお子さんのことを見ていきたいか記入しましょう。

アクティビティ⑨ ふりかえり：別れの花束（15分）

＜展開の仕方＞

ねらい

これまで学習してきた仲間のよいところを考えたり、自分のよいところに気づいたりすることで、認め合うことの大切さに気づきます。

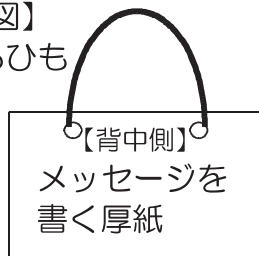
アドバイス

1 厚紙に自分自身が感じたことを書き、その厚紙を肩にかけます。

2 参加者一人一人が、室内を自由に移動しながら、各自が肩にかけている厚紙に、その人の家庭教育学級での活動の様子や発言などについて、メッセージを書き合います。

【図】

肩にかけるひも



3 ほぼ全員に書いてもらうまで、互いにあいさつやお礼を言いながら、室内を移動します。

4 書き終わったら、自席に戻り、自分あてに書かれた参加者のメッセージを静かに読みます。

準備物： ひもを通した厚紙(図参照)…参加人数分

相手のよかった点や、今後参考にしたい点などを書き込むように伝えましょう。

ゆとりのある時間を設定し、BGMを流すなどして温かい雰囲気をつくりましょう。

よりよい人間関係が築かれていくように心がけましょう。

自分が学習した成果や活動を今後の生活に活かしていくきっかけとなるようにしましょう。

(例)





参加体験型学習をより活発にする「ファシリテーター」の役割や留意事項について説明します。



【ファシリテーターの役割とは】

参加体験型学習をより活発にし、学習の目的に近づけるためにもファシリテーターの役割は重要になります。

【学習の目的に近づけるための3つの技術】

* プロセス・デザイン

参加者の意識を学習の目的に集中させ、お互いのベクトル（方向性）を合わせること。

* プロセス・マネジメント

参加者同士のコミュニケーションを円滑にし、お互いの意見や考えを引き出すこと。

* コンフリクト・マネジメント

意見や考え、価値観の違いに目を向け、新たな解決策や気づきを引き出すこと。全ての参加者を、Win&Winの関係に導くこと。

(www.c-youme.com を参照)

Q：ファシリテーションをするとき、
どんなことに気をつければよいのですか。



A：ファシリテーションは、そのファシリテーターによって十人十色でよいのです。学習のねらいを達成することが目的ですから、そのプロセスや手法、雰囲気などはファシリテーターの個性を生かしてよいのです。

よりスムーズなファシリテーションのためには、

- 1 ファシリテーター自身のオープンマインド（自己開示）
- 2 笑顔と受容・共感の態度
- 3 多様な価値観を受け入れる姿勢

などが求められます。

参加者とファシリテーターに一体感が生まれ、短い時間ではあっても、一つの集団として目標に向かうような雰囲気になれば、学習はおのずと促進され、ねらいの達成に近づくことができます。